

I. 目的

アフェレーシスの正しい知識を有し、アフェレーシスを受けるドナーと患者への的確な看護を実践し、アフェレーシスの安全性の向上に寄与することのできる看護師を育成する。

II. 到達目標

- ・アフェレーシスの原理および適応を理解できる。
- ・手技の流れおよび機器操作を理解できる。
- ・アフェレーシスを安全に実施するための基本手順を理解し、実践できる。
- ・合併症の予測、早期発見および対応ができる。
- ・医師、臨床工学技士等と連携し、安全に看護を実践できる。

III. 認定前事前教育

認定試験前日講義（半日）

IV. カリキュラム

1. 基礎医学

循環生理、免疫、造血システム

2. 輸血療法の考え方

輸血療法の基本概念、関連指針（輸血療法実践ガイド等）

3. アフェレーシスの基礎と実際

アフェレーシスの役割と歴史、原理と機器操作、G-CSF の作用機序、末梢血幹細胞採取（ドナー・患者）、リンパ球および顆粒球の採取、成分採血（血液センター）、治療的アフェレーシス（血漿交換療法は対象外）、細胞処理（CD34 測定・凍結・解凍）

4. アフェレーシス看護

患者・ドナー対応との関わり・準備、事前評価（血管、リスク評価）、実施中のモニタリング、合併症対応（低 Ca、血圧低下、回路トラブル等）、採血後の対応、安全対策

5. 造血幹細胞移植

末梢血幹細胞移植、骨髄移植、臍帯血移植、ドナーフォローアップ

6. 免疫細胞療法

ドナーリンパ球輸注、CAR-T 細胞療法、顆粒球輸血療法、体外式光化学療法

7. 血液事業

血液事業の概要（献血制度、血液製剤供給体制 等）

V. 評価方法

- ・ 講習受講の確認
- ・ 筆記試験

VI. 参考図書等

1. 学会認定・アフェレーシスナース制度審議会カリキュラム委員会.
「学会認定・アフェレーシスナース制度カリキュラム」. 2022 年
2. 日本造血・免疫細胞療法学会.
「造血幹細胞移植ガイドライン 造血幹細胞採取（第 3 版）」. 2024 年
https://www.jstct.or.jp/uploads/files/guideline/02_03_harvest03.pdf
3. 前田平生, 大戸齊, 岡崎仁 編.
「輸血学 改訂第 4 版」第 9 章（血液成分採取）. 中外医学社, 2018 年
4. 日本輸血・細胞治療学会 ガイドライン委員会.
「輸血療法実践ガイド」. 2026 年 2 月
<https://yuketsu.jstmct.or.jp/guidelines/>